

閉館中の舞台スタッフは・・・?



ホールにとどまらず屋外フェスティバルの舞台監督も務めました。



他の施設で舞台スタッフをしたり、市民センターの音響設備の修繕も!



週1回は保管倉庫に音響設備のチェックに向かいます。



新しいホールでお会いしましょう!



「只今、ホール大規模改修工事中!!!」
(2025年7月オープン予定)

いちようホールは、中規模サイズのホールとして使い勝手が良く、オーケストラピットや迫り、歌舞伎公演などで使う花道といった舞台機構が充実しており、年間を通じて多くの方に利用されてきました。現在、リニューアルオープンに向けて大規模改修中! いちようホール舞台スタッフは幅広いジャンルの催しが安全にかつ満足いただけるよう知識や技術を磨きながら、これからお客様のお客様の晴れの舞台をサポートしていきます。

舞台スタッフから見た、改修後の魅力は?

改修後は、音響設備とプロジェクターが一部新しくなり、鮮明で迫力のある映像作品の上映も可能になります。また、大ホールの座席は、いちようが黄葉に変化していく配色で高低差の無い前列が千鳥の配置となり、小ホールにはエレベーターが設置されるなど、今までの親しみやすさに加え、より心地良い空間で舞台を楽しんでいただけるようになると思います。(いちようホール舞台スタッフ)

#お仕事
ファイル

財団のお仕事をご紹介します!

いちようホール
舞台スタッフ

インタビューしました!

ラトララ voice

財団主催公演の来場者アンケートから、感想を少しご紹介!

11/4(月・休) 東京交響楽団 第11回 八王子定期演奏会

- ・オペラ歌手(ソプラノ・テノール)との共演がすばらしかった。選曲もよく、後半のスメタナの「我が祖国」は、若い頃に見たチェコの城、橋、街並みを思い出しました。
- ・会場いっぱいに響き渡る声に心が震えました。曲目が変化に富んでいて、初めて生の演奏会に参加した私にとって、今後も参加したい気持ちになる公演でした。

深貝理紗子(ふかがいりさこ) ピアニスト。エコール・ノルマル音楽院を経てスコラ・カントルム音楽院首席修了。東京文化会館主催公演など出演多数。柴田南雄音楽評論賞受賞。近現代音楽、フランス芸術サロン文化を中心に活動を展開中。

連載 フランス音楽を纏う

Vol.4 シャブリエと色彩

音がカラフルに舞い、立体的に飛び込んでくる。この感覚は何だろう。初めてそう思ったのが、中学生のときに会ったエマニュエル・シャブリエの「スケルツォ・ワルツ」というピアノ作品でした。以降、いつ聴いてもその心躍る感覚は変わることもなく、いまでは私の愛楽曲になりました。

この作品は十曲から成る《絵画風小品》に収められています。シャブリエは、マネやルノワールの絵画作品を所蔵し支援するほどの美術愛好家で、いわゆるバティニョール派と呼ばれる美術家たちとも交流を持ちました。私はバティニョール公園の近くに住んでいたため、まるで歴史との散歩道:彼らが集った場にはマラルメやソラなど、社会的にも大きな影響力を持つようになる文筆家も出入りしました。

シャブリエは内務省に勤務する役人でもありました。四十歳近くになったころ「音楽に生きたい」と涙ながらに退職します。そうしてその数年後、画期的な音楽史上のひとつの事件と言っても良いほどの「エスパーニャ」が生まれま



バティニョール公園内に咲く桜(撮影:深貝理紗子)

す。爆発的な人気を収め、のちのドビュッシーやラヴェル、サティやプーランク、ストラヴィンスキーらの音楽性にまで影響を与えました。

「ある日、シャブリエが家に来てエスパーニャを風のように弾いていたの。そしたらピアノの弦がね、何本も切れてしまったのよ」と、ルノワール夫人。皆さん、エスパーニャと色鉛筆のご準備を。心に飛び込むまま色を重ねて、あらゆる不思議。幸せな模様が、浮かぶでしょう?」

Vol.5以降はweb版にてご覧いただけます。詳しくは8ページをご覧ください。

深貝理紗子

八王子車人形 × コンテンポラリーダンス
伝統と革新—異色のコラボレーション—
『車人形と踊ってあそぶラボ!』

9/28(土)~29(日)に開催された「伝承のたまてばこ〜多摩伝統文化フェスティバル2024〜」。訪れた多くの来場者が多摩地域の伝統文化を楽しみました。中でも注目を浴びたのが、八王子の伝統芸能である車人形とコンテンポラリーダンサーたちによる創作舞台『車人形と踊ってあそぶラボ!』です。伝統芸能をより身近に実感してもらいたい、という思いからはじまったこの企画。人間とは違う“人形”ならではの動き

や、車人形の“ろくる車”で移動するときの所作から着想を得て、ダンサー・人形遣いたちが互いに影響し合い、古今東西の楽器隊も巻き込んだ摩訶不思議なステージが出来上がりました。“踊ってあそぶラボ”という名の通り、ダンスステージに加えて出演者による解説、観客と一緒に踊るコーナーもあり、当日はたくさんのお客様と一緒に大盛り上がり!ここでしか観られない特別なコラボレーションとなりました。



出演者からコメントをいただきました!

一番面白かったのは、車人形の発祥と、それに付随する技術発展です。3人使いの人形を1人使いにするのは、時代の逆行であったと想像しますが、本当に大切にしたいもののために、自らの身を削り、生まれたのが車人形ではないでしょうか。その精神と自由さを、西川柳玉さんから学ぶことができたのが、最大の発見であり成果です。ありがとうございました。



振付家・ダンサー 青木尚哉さん

『車人形と踊ってあそぶラボ』を含めた「伝承のたまてばこ〜多摩伝統文化フェスティバル2024〜」での各種ライブ配信が、アーカイブとしてYouTubeで観られます! ←ぜひご覧ください!」

特に面白かった場面は「スケルトン」という演目です。5人の人間が人形の首、両手、両脚を持ち、まるでバラバラになった人形が宙を浮いているかのような演出で素敵な歌声と演奏も相まって不思議かつ幻想的な空間を創り出しておりました。

昨今、八王子車人形は古典を大切にしつつも、新しい演出を取り入れ幅広い客層に観ていただけるよう力を入れておられます。

そんな中このように「コンテンポラリーダンス」というジャンルとコラボすることで、車人形の新たな可能性を感じることができました。



八王子車人形西川古柳座 五代目 西川柳玉さん

夢美セレクション展

八王子市夢美術館では現在、寄贈を受けた作品を中心に2,000点を超える作品を収蔵しています。本展では洋画家の大野五郎、小島善太郎の油彩作品、版画作品からは巖嘯、神邊コレクションの近代木版口絵のなかから作品をセレクトして展示します。

2/8(土)~3/23(日)

10:00~19:00(ただし、入館は18:30まで)
※月曜休館(休日の場合は開館し、翌平日が休館)

【料金】一般 400円 学生、65歳以上 200円
※中学生以下無料 ※ラトララ友の会会員は2割引

八王子市夢美術館(八王子市八日町8-1 ビュータワー八王子2F)
TEL:042-621-6777 FAX:042-621-6776
【ホームページ】https://www.yumebi.com

油彩 1955年 大野五郎(赤と緑の風物) 八王子市夢美術館蔵



八王子市 夢美術館 EXHIBITION

臨時休館のお知らせ
1/27(月)~2/7(金)は展示替え等のため休館します。